ナ　シ　生　育　情　報

第　２　報
千葉県農林水産部
令和５年６月号

果実肥大は概ね平年並ですが地域によってややばらつきがあります。
関東地方は、今後も曇りや雨の日が多い予報です。引き続き黒星病の発生には注意が必要です。

【気　　象】

■気象条件

５月の日平均気温は、第１半旬、第４半旬及び第６半旬は平年より高くなりましたが、第２半旬、第３半旬及び第５半旬は低く、月平均では平年並でした（表１）。降水量及び日照時間は前年や平年を上回りました。関東甲信は平年より１日遅い６月８日に梅雨入りが発表されました。６月の第１半旬及び第２半旬は、平年より気温は高く、降水量は非常に多くなりました。

表１．令和５年５～６月の気象（アメダス佐倉）

月	半旬	平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
５月	1	17.8	15.2	16.6	1	21	16	56	41	31
	2	16.2	16.8	17.1	133	14	19	33	24	29
	3	16.4	19.2	17.6	9	63	22	14	11	28
	4	20.9	17.8	18.2	14	12	23	41	27	30
	5	18.0	19.2	19.0	21	7	22	28	32	30
	6	20.3	20.9	19.6	18	32	23	29	39	35
５月平均/計		18.3	18.3	18.1	194	148	127	200	173	179
６月	1	21.1	20.5	20.0	202	15	19	32	37	27
	2	21.4	17.8	20.4	35	25	23	17	6	24

注）平年は平成３年～令和２年の 30 年間の平均

【生育状況】

■果実の肥大

６月８～９日の果実の大きさを満開後日数の横径で比較すると、「幸水」では平年と比べ農林総研が 104%とやや大きく、市川市が 96%とやや小さくなりました（表２）。「豊水」では平年と比べ、農林総研が 101%と平年並、鎌ケ谷市が 95%とやや小さくなりました。

表２．基準調査園における生育調査の結果（農林総研と鎌ケ谷市は６月９日、市川市は６月８日）

品種	調査地	樹齢	横径（cm、(%)）			縦径（cm、(%)）			着果数
			果径	暦日	満開後	果径	暦日	満開後	個/樹
幸水	農林総研	19	4.08	(132, 123)	(114, 104)	3.54	(134, 125)	(118, 106)	263
	市川市	38	3.83	(109, 116)	(102, 96)	3.31	(106, 117)	(100, 98)	並
豊水	農林総研	43	4.00	(119, 118)	(104, 101)	3.76	(121, 119)	(107, 103)	392
	鎌ケ谷市	39	4.01	(114, 118)	(96, 95)	3.81	(115, 120)	(98, 98)	並

注）横径及び縦径の（　）は、前年及び平年の値を 100 とした比で表した。

■作柄の予想

満開後 50 日の果径（農林総研）から予測される「幸水」の収穫果重は 334ｇで、平年の 108%とやや大きくなっています。

「豊水」のみつ症は、満開後 91～100 日の日最高気温の平均値が低い年に多発する傾向にあります。農林総研では６月 28 日～７月７日がその期間に当たるので留意が必要です。

気象庁（６月 15 日発表）の１か月予報によると、今後も曇りや雨の日が多くなる見込みです。気温はやや高く、降水量と日照時間は平年並と予想されています。

【栽培管理のポイント】

■仕上げ摘果の実施

「幸水」では、極小果や裂果を７月中旬頃に摘果しますが、本年は開花が早かったため前倒しで行います。黒星病発病果や変形果などは見つけ次第摘果します。他の品種についても変形果などは早めに摘果します。

■新梢管理

樹冠内部が混雑して日光の透過が悪い場合は早急に誘引や摘心などで対処します。新梢を過度に間引くと樹勢や果実肥大に悪影響が出るおそれがあるので注意します。「幸水」の予備枝は、６月中下旬（新梢伸長停止直前）に予備枝ごと倒し、先端から伸長した新梢を仰角 20～30 度になるように誘引します。

■潅水・排水

潅水は土壌が乾燥する前に始めます。砂質土では５～７日間、その他の土壌では 10～15 日間まとまった雨がない場合に、10ａ当たりそれぞれ 15ｔ、20～30ｔ潅水します。一方、梅雨の後半には集中豪雨が起こりやすいので、水はけの悪い圃場では明渠などによる排水対策を行います。

■病害虫対策

千葉県（６月 14 日発表）の病害虫発生予報によると、向こう１か月間の予想発生量は、シンクイムシ類がやや多、黒星病、ハマキムシ類、アブラムシ類が並となっています。黒星病のスス状の病斑がある果そうや果実等は見つけ次第除去し、園外に持ち出します。治療効果のあるＤＭＩ剤は連用すると耐性菌出現の可能性があるので、使用は年３回以内とします。

表３．協力調査地における生育調査の結果（６月 10 日）

品種	調査地	樹齢	果径(cm、%) 横径	縦径	病害虫発生状況及び特記事項
幸水	市原市	16	4.45（ 117 ）	3.71（ 112 ）	６月８日調査
	木更津市	23	4.30（ 106 ）	3.70（ 109 ）	
	印西市	25	4.12（ 105 ）	3.47（ 104 ）	枝折れ有（台風２号）
	柏市	12	4.20（ 110 ）	3.53（ 111 ）	
	いすみ市	35	4.49（ 128 ）	4.30（ 141 ）	
	一宮町	20	5.20（ 140 ）	4.40（ 138 ）	６月13日調査
	香取市	30	3.55（ 96 ）	3.10（ 93 ）	
豊水	八千代市	20	3.76（ 110 ）	3.58（ 112 ）	黒星病やや有
	館山市	20	4.04（ － ）	3.54（ － ）	
	旭市	25	4.03（ 110 ）	3.71（ 114 ）	黒星病有
	香取市	20	4.05（ 113 ）	3.63（ 111 ）	
	四街道市	10	3.69（ 107 ）	3.71（ 119 ）	
あきづき	鎌ケ谷市	24	3.83（ 112 ）	3.50（ 104 ）	黒星病少し
	船橋市	12	4.05（ 105 ）	3.40（ 105 ）	６月９日調査
	松戸市	25	3.75（ 112 ）	3.55（ 111 ）	
	いすみ市	14	3.57（ 112 ）	3.21（ 107 ）	

注）（ ）内の値は、前年対比を記載。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【生育情報の問合せ先:千葉県農林総合研究センター　果樹研究室 電話 043-291-9989】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.htm